

## したのやムラの 「ムラびと」のこと



したのやムラのムラびとには、遺跡の管理（草むしりや見回りなど）やPRのおてつだい（イベントのボランティアスタッフなど）をしたり、イベントに参加したり、所定の講座を受けて下野谷遺跡や縄文時代について学んだり、昨年度に実施したクラウドファンディングによる寄附を通じ、史跡整備などにご協力していただくなど、様々な形で下野谷遺跡に関わっていただくことができます。

ムラびとになると、このお便りが届きます。また、みなさんが参加できるスペシャルイベントも考えます！

ムラびとのモットーは、したのやムラを楽しむことと、その魅力をたくさんの人に発信することです。

これまで上記のような活動に参加した方や、ご興味のある方はお問い合わせください。

お待ちしております。

### My favorite photo



### わたしのお気に入りの1枚



ある晴れた昼下がりの日、ふらっと下野谷遺跡公園を訪れたら、とても心地よい雰囲気です。縄文人たちも、こんな風を感じてこの場所を選んだのかな…などと考えた一時でした。

「わたしのお気に入りの1枚」では、このコーナーに掲載する下野谷遺跡の写真を皆様から大募集します！  
件名に「わたしのお気に入りの1枚」と入力し、下記メールアドレスまでお送りください。お待ちしております！

✉ syakyou@city.nishitokyo.lg.jp



### お知らせ

令和2年に整備を行った地区の一部を8月に開きます。他の地区はまだ史跡整備工事が続きますが、少しだけ新しくなった下野谷遺跡に、ぜひお越しください。

遺跡で例年行っている「縄文の森の秋まつり」は、新型コロナウイルスの状況を見ながら開催の可否や方法を検討中です。詳細が決まり次第、ホームページ等でご案内しますので、開催の際にはどうぞご参加ください。

### したのやムラだより vol.1 (2021/8)

発行：西東京市教育委員会 教育部 社会教育課 文化財係

☎ 042-420-2832

✉ syakyou@city.nishitokyo.lg.jp

H P:



したのやムラだよりでは今後も、したのや遺跡の魅力や活動の成果について、定期的にご紹介いたします。

楽しみに！

vol.1

したのや  
ムラ  
だより

### したのやムラへようこそ！

みなさん、こんにちは。おまちかね、したのやムラだよりの第1号をお届けします。

これからこのお便りで、最新の研究でわかるしたのやムラの昔の姿や、今のしたのやムラでの活動などの旬な話題をお知らせしていきます。

今回は最初のおたよりなので、まずは「したのやムラの昔と今」の基礎知識について主にご紹介します。

まずは、したのやムラを紹介してくれる大事なナビゲーター「しーた」と「のーや」をご紹介しますおきましょう！

### したのやムラの 「しーた」と「のーや」です！



しーたとのーやは縄文時代のしたのやムラに住む子どもたち。男子のしーたは弓の使い方を、女子ののーやは土器の作り方を教わり始めたばかりです。ふたりは本当の兄妹ではありませんが、同じ家族として1軒の竪穴住居に仲良く暮らしています。



縄文時代の暮らしのこと、家族やムラの仲間たちのことなど、これからお話していきますので、どうぞよろしくおねがいします！

©T&K / 西東京市

# したのやムラの

# 昔

したのやムラは今から5～4千年前に、現在の東京都を含む武蔵野台地のほぼ中央にあった縄文時代の集落です。現代の「村」とは違う社会の仕組みであった可能性もあるため「村」でなく、「ムラ」とします。



したのやムラは縄文時代の中期後半、約1,000年間にわたり人々の活動の拠点となるムラでした。

土器が発明された縄文時代以前の旧石器時代の人たちも、約3万年以上前から同じ場所を生活のために使っていたことや、縄文時代のムラがなくなった後も、弥生時代～古代にはほとんど使われていないものの、中世以降は人々の活動の場となっていたことが、発掘調査で見つかったモノ（遺物）や構築物の跡（遺構）からわかっています。こういった人々の過去の活動が残された場所を「遺跡」といいます。したのやムラは、今は「下野谷遺跡」と呼ばれる複数の時代の活動痕跡が残る複合遺跡で、縄文時代中期では南関東最大級の集落遺跡です。



縄文時代中期のしたのやムラは、クリやドングリなどの落葉広葉樹林を切り拓き作られました。



高台の上にあり、北側の崖下には沼地のような湿地帯が広がり、その中を石神井川がいく筋も流れていました。ムラが作られた高台の台地を少し削り込むような浅い谷があり、それを挟み東西に2つムラがあったと考えられています。この2つのムラは、まったく同時に使われていたかどうかはまだわかりませんが、いずれも約5～4千年の間続いたムラであったことは、出土している土器の形や模様からわかります。



周囲を海に囲まれ、高い山や平野など起伏ある地形にも恵まれた列島の豊かな自然。

自然の恵みを効率よく利用するために周囲の生態系に手をいれ、より豊かな「縄文里山」をムラの周囲に作り、人とも自然ともバランスを保ちながら生きる智慧を身につけたことが、世界史上ほかに類を見ない独自の「新石器文化」である「縄文文化」を生み出した要因の一つであると考えられています。



現在のしたのやムラ（下野谷遺跡）は、東京都西東京市東伏見二、三、六丁目の住宅街です。

遺跡の範囲はムラの周辺も含まれ、西東京市立東伏見小学校も範囲の中に入っており、子どもたちの声がにぎやかです。夏の今は、秋の豊作を予感させる若い木の実が見頃です。



みんなが生活したり遊んだりする地下に、竪穴住居の跡や土器が埋まっているなんてびっくり！

どうしてそんなことが起こったのでしょうか？  
風などで飛ばされたり、川で運ばれた土、そして木々や虫が作り出す土がどんどん積み重なって遺構や遺物が埋まる「堆積層」ができていきます。そのため、古いものほど深い地層に埋まっています。そういったものを保存や研究のために掘り出す調査を「発掘調査」といい、それらから過去のことを考える学問を「考古学」といいます。

下野谷遺跡は、考古学の研究に非常に重要で、未来に残すべき貴重な文化遺産として平成27年3月に国の重要な遺跡＝国史跡に指定されています。



現在下野谷遺跡では、西集落の一部で「史跡整備」をすすめています。

令和2年度は、3つに区切った整備地区の一番東側の地区で縄文時代にあった植物を植えたり、安全に史跡を楽しんでいただく準備を進め、説明板や史跡の名称柱も設置しました。令和2年度に行ったクラウドファンディングにより寄附いただいたみなさんのお名前を説明板の裏に掲示させていただき、8月下旬におひろめします。  
令和3年度、4年度で残りの地区にも木々を植えたり、竪穴住居を復元したりして、縄文時代のしたのやムラを体感していただけるようにしていく予定です。利用しやすいトイレや日よけの場所も作ります。



下野谷遺跡の史跡整備は、「みんなで作り、育てる」をテーマにしています。主役はムラびとのみなさんです。少しずつ「みんなで作り、育てる」を進めていきたいと思っています。ぜひ一緒にしたのやムラを楽しみましょう！

# したのやムラの

# 今